

◆ 江戸川都税事務所長賞 ◆

「支えられ、支えたい」

江戸川区立篠崎第二中学校 3年 下山 寛之晋

今年の夏休み、私は虫垂炎になった。手術をし、約1週間入院した。入院する時、痛いお腹を手で押さえながら、治療費は一体いくら掛かるのだろう、親に負担をかけてしまうのではないかと心配になった。その気持ちを両親に伝えると、両親は言った。「心配しないで。区から助成金をいただけるから。本当にありがたいね。」それを聞いた私は、安心して治療を受けることができた。

私の住んでいる江戸川区では、子ども医療費助成制度があり、十八歳までの子どもは医療費が全額助成され、自己負担無しで医療を受けることができる。日本全国の自治体でも、若干の違いはあるが、同様の制度がある。私は幼少の頃から、入院や手術を何回か経験していて子ども医療費助成制度には何度も助けられたのだと、退院後、両親から聞いて知った。

しかし、この制度のお金はどこから出ているのだろうか。答えは皆が納めている税金からである。税金によって、私たちはこのような恩恵を受けることができる。この制度のありがたみ、税金のありがたみを、今回身をもって感じた。

もし、税金がなかったらどうなっていたらだろう。私は今まで考えたこともなかった。きっと、全て自分達で負担しなければならなくなる。そうなると人々は不安になり、安心して暮らせなくなってしまふ。今まで当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなくなってしまう。そう考えると、税金はなくてはならないものだと思えた。

そこで私は、今自分にできることは何かと考えた。私たちにとって最も身近な税として「消費税」が頭に浮かんだ。消費税がどのように使われているのか調べてみると、主に医療費・介護、子ども、子育て支援などの社会保障費に使われていることが分かった。これまで、買い物をした時に支払う消費税について、何だか損をしているようなマイナスのイメージしかなかったが、その消費税が私たちの生活のあらゆる場面で使われていることを知り、社会に貢献できているようで、嬉しくなった。自分も世の中の役に立つことができているようで誇らしく思えた。このように、一人一人が税に関心を持ち、自分に何ができるかを考え、行動することで社会がよりよいものになっていくのだと思う。

私たちは将来、働くようになると、消費税だけでなく所得税や住民税などあらゆる税金を納める立場になる。現在の支えられる立場から、次の世代の子どもたちや、様々な人々を支える立場になっていく。

国民の三大義務のひとつである納税。その大切さをもう一度認識し、しっかりと税金を納め、明るい日本の未来をつくっていきたい。